

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-6	中学校	音楽	器楽合奏	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
27 教芸	器楽 752	中学生の器楽		

## 1. 編修の基本方針

### 編修の趣旨

私たちは音楽科の学習を通して、生徒に「このような資質・能力を育みたい」と願いました。

- 音楽を通して社会と関わりながら豊かな人生を切り拓く力。
- 音楽の幅広い知識や技能。
- 主体的・対話的で深い学びの実現によって得られる、汎用性の高い学力。

こうした課題に取り組むために、次のようなことに留意して編修いたしました。

### 3つの 基本方針

#### 基本方針 1

さまざまな音楽文化に  
触れられるようにします。

我が国や諸外国に伝わるさまざまな音楽に触れ、そのよさを感じ取りながら、表現活動ができるようにしました。



#### 基本方針 2

音楽の幅広い知識や技能を  
得られるようにします。

楽器の特徴などの知識や、表現活動をするための技能を確実に得られるように、さまざまな工夫をしました。



#### 基本方針 3

主体的・対話的な学習を引き出し、  
深い学びを促します。

課題意識をもって、友達と対話、協働しながら学習することで、学びの質を深めます。







# 主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びを促します。 課題意識をもって、友達と対話、協働しながら学習することで、学びの質を深めます。

## 1 キャラクターやコラムが主体的・対話的な学習を促します。

考える観点を例示しながら、主体的で対話的な学びを引き出します。

アンサンブルセミナー



**深めよう！ 音楽**

### パートの役割

- ①-③のパートについて、旋律やリズムなどの特徴を調べてそれぞれの役割を考え、気付いたことをメモしましょう。
 

①の主旋律は、のびやかに歌い上げようような感じだね。

③の低音は、リズムを割っているね。
- 4人以上のグループになり、それぞれのパートに合う楽器を選びましょう。
 

**楽器の例**  
 ソプラノ リコーダー   アルト リコーダー   鍵盤ハーモニカ  
 鉄琴   木琴   低音楽器   電子キーボード
- 選んだ楽器で実際に演奏し、全体の響きを確かめましょう。
 

パートによって音の高さを1オクターブ変えると感じが変わるね。

1回目と2回目で楽器や音の高さを変えて、響きを変化させてもいいね。

13

(p.13)

アンサンブルセミナー

**深めよう！ 音楽**

### 曲の構成

- 曲は①②の2つの部分で構成されています。それぞれの部分で、各パートのリズムや強弱、音の重なり方などのような特徴があるか調べましょう。
 

**①の部分について**

2のパートがずっと「あ」というリズムで演奏しているね。

1のパートは「あ」というリズムだから、2のパートのリズムに合わせて「あ」で演奏したくなるね。

※1 地打ち(「あ」というリズム)  
※2 裏打ち(「あ」というリズムに合わせて打つメインのリズム)

**②の部分について**

1と2のパートの役割はそれぞれどうなっているかな？

リズムや強弱は①の部分と比べてどう変わったかな？
- 演奏順序は①→②になっています。①で調べたことをもとに、それぞれの部分の表現の仕方を工夫しましょう。
 

注目するポイント

テクスチャ(音の重なり方)
強弱      構成

\* 唱歌... 楽器の演奏や音の感じなどを言葉で表したもの。これを歌ったたり編みたりして、リズムやリズムを変えたり振えたりする。口輪歌ともいう。 ● p.59 「文楽の編み」

15

(p.15)

## 特に意を用いた点

### ギターのダイアグラム

奏者の視点からの模式図を併用し、いっそう分かりやすくしました。

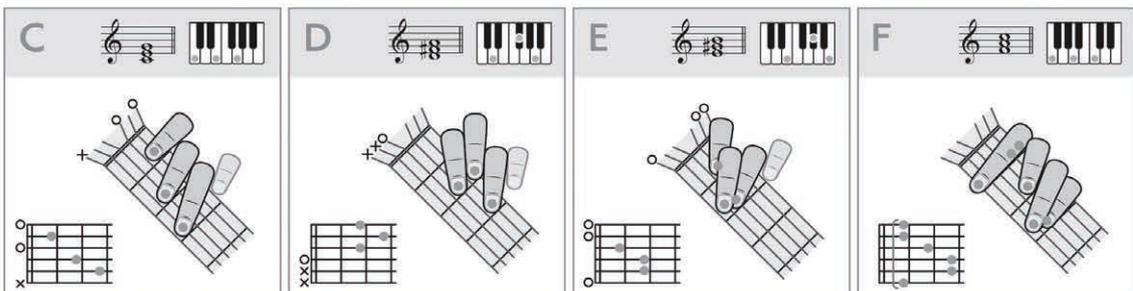
メジャーコード

C

D

E

F



(p.102)

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭口絵	ピアニスト、反田恭平氏のインタビューを掲載し、楽器を通じた音楽文化に親しみ尊重する態度を養えるようにしました。(第五号)	p.2・3
	人が楽器を演奏する、ということはどういうことなのかを社会とのつながりの中で理解できるようにしました。(第四号)	p.4・5
アンサンブルセミナー	器楽の活動を通して、音楽科の学力を高めることのできる教材を配置し、その学習手順を示しました。(第一号)	p.10～15
	グループ活動の中で、協働しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号)	p.10～15
リコーダー ～ 打楽器	各楽器の特徴や基本的な奏法が理解できるように、分かりやすい写真と説明文を示しました。(第一号)	p.16～74
	生徒一人一人の創造性を育成するために、創作の学習内容を示しました。(第二号)	p.49
	和楽器を活用した学習活動を通して、我が国の伝統的な音楽に親しみ、そのよさを味わえるようにしました。(第五号)	p.40～69
	諸外国の音楽で使用する楽器を紹介し、それらを用いる音楽により親しめるようにしました。(第五号)	p.70～74
アンサンブル	グループ活動の中で、協働しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号)	p.76～95
	我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統的な音楽やその手法を用いた教材を掲載しました。(第五号)	p.92～95
楽器で Melody	さまざまなジャンルの名曲の旋律をリコーダーや和楽器などで演奏し、それらに親しめるようにしました。(第一号)	p.96～99
資料	我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統音楽にどのような楽器が使われているかを示しました。(第五号)	p.69
	和楽器を演奏している中学生の姿を紹介することによって、我が国の伝統的な音楽や楽器への親しみをもてるようにしました。(第五号)	p.107

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-6	中学校	音楽	器楽合奏	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
27 教芸	器楽 752	中学生の器楽		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

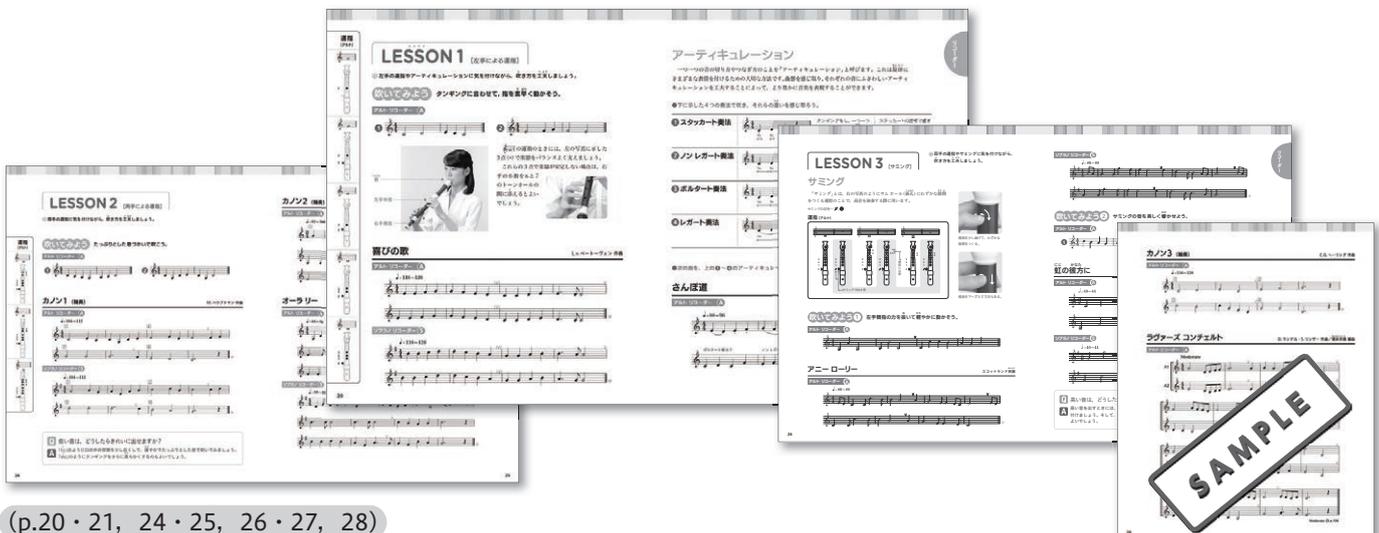
### 1 学習指導要領に示された内容を確実に学習できます。

「器楽」の活動を通した「学び」に注目できるように「アンサンブルセミナー」をはじめに示しました。



### 2 楽器の奏法，基本的な技能を確実に習得できます。

さまざまな楽器の奏法，基本的な技能を分かりやすく説明しました。手順を追って無理なく取り組むことができます。



(p.20・21, 24・25, 26・27, 28)

### 3 エキスパートの方々からのメッセージを掲載しました。

各楽器の奏者の方々から、エキスパートならではのメッセージを紹介しました。

(p.66)



(p.40)



**遠藤千晶さんからのメッセージ**  
 箏は、糸の弾き方によってさまざまな音色を出すことができる楽器です。また、「序調子」(p.41)などに編み込まれた糸を順番に弾くことによって、日本の音階の美しさを感じ取ることもできます。  
 一つ一つの音の響きをよく聴きながら、思いをこめて演奏をしてください。

(p.62)



**新保有生さんからのメッセージ**  
 篠笛はシンプルなつくりの楽器ですが、柔らかい音から華やかな音まで幅広い表現ができます。音色だけでなく指打ちなどの美法によって、演奏者ごとに全く違う個性をもった音になることもこの楽器のおもしろさです。

**藤原道山さんからのメッセージ**  
 尺八は、指孔の数が少ないシンプルな楽器ですが、息や指の使い方、首の動きでさまざまな音をつくることができます。シンプルだからこそ無限の可能性をもつ、自分の思いを表現できる楽器だと思います。



**ヒダノ修一さんからのメッセージ**  
 日本の太鼓は、音楽として楽しむだけでなく、日本古来の伝説や歴史にもたびたび登場するとても重要な楽器です。友達どうしで呼吸を合わせることで、すばらしいアンサンブルをつくり上げることができます。心と心をつなぐリズムの響きを求めて、両手をしっかりと上げ、大きな声を出して楽しんでください。



**件屋栄八郎さんからのメッセージ**  
 「三味線」はその名前とおり、それぞれ音色の異なる3本の糸を、ばちを使って演奏する楽器です。3本の糸からそれぞれどのような音が出るのか、まずは実際に弾いてみて、その魅力を見つけてください。

(p.56)

(p.50)

### 4 さまざまな編成、ジャンルの合奏曲を掲載しました。

さまざまな楽器に対応し、多彩なジャンルの音楽に触れられるような合奏曲を掲載しました。

(p.77)

**星の世界**  
 C.C.コウツクス 作曲/藤原道山 編曲  
 編成: 尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙、尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙

(p.84)

**ブルタバ(モルダウ)** (連作交響詩「我が祖国」から)  
 B.スメタナ 作曲/石野真規 編曲  
 編成: 尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙

(p.86)

**大きな古時計**  
 H.C.ワーク 作曲/天城深舟 編曲  
 編成: 尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙

**MATSURI**  
 藤原道山 作曲  
 編成: 尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙

**「寄せの合方」によるリズムアンサンブル**  
 藤原道山 作曲/石野真規 編曲  
 編成: 尺八、箏、三味線、太鼓、大鼓、小鼓、締り太鼓、打楽、笛、笙

(p.92)

(p.94)



## 7 教科書の特徴

基本事項	教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育基本法第二条の「教育の目標」を達成するため、次のような点を重視して編修しました。</li> <li>①音楽を愛好し、自らの生活に生かす心を育む。 ②確かな音楽科の学力を育む。</li> <li>③主体的・対話的に学習に取り組む態度を育てる。</li> </ul>
	学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導要領に示された音楽科の目標を踏まえ、指導すべき内容項目は漏れなく押さえました。</li> </ul>
内容	系統性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全学年を通して、学習指導要領の内容に示された学習が段階的に進められるように教材を選択しています。</li> </ul>
	配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習目標と活動文を明示した「アンサンブル セミナー」を冒頭に配列し、器楽を通した学習が行えるように配慮しました。(p.10～15)</li> </ul>
	学習意欲・主体性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目次とは別に、器楽と創作の2分野について、1年間の学びを俯瞰できるページを配置しました。(p.8・9)</li> </ul>
	アンサンブル セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習目標と活動文を明示し、器楽を通した学習が行えるように配慮しました。(p.10～15)</li> </ul>
	リコーダー ～ 打楽器	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各楽器の特徴を理解し、その表現活動に必要な基本的な技能を習得できるように内容を精選しました。(p.16～74)</li> </ul>
	創作教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>●筆による表現活動に関連して、スムーズに創作の学習に結び付けられるようにしました。(p.49)</li> </ul>
	(共通事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「アンサンブル セミナー」では、その教材を指導する際の目安となる、[共通事項]に示された音楽を形づくっている要素を表示しました。(p.10～15)</li> </ul>
	主体的・対話的で深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吹き出しなどで生徒の思考の例を明示することによって、生徒の「思いや意図」を生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようにしました。(p.11, 13, 15)</li> </ul>
	伝統文化の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●我が国の伝統的な音楽に親しみながら、それらのよさを感じ取り、愛着をもつことができるようにしました。(p.40～69, p.92～95, p.98・99, p.107)</li> </ul>
	国際理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特に「打楽器」のセクションでは、諸外国の民族楽器も取り上げ、諸外国の音楽文化に対する理解が進むように配慮しました。(p.70～74)</li> </ul>
	社会とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活や社会と音楽とのつながりを実感できる教材を掲載しました。(p.4・5, p.107)</li> </ul>
その他	ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紙面上の二次元コードに埋め込まれた URL を読み取ることによって、学習をサポートする参考資料を閲覧することができるようにしました。</li> </ul>
	特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援教育の専門家から助言を得て、学習活動文の配置を工夫するとともに、見やすく分かりやすい紙面になるよう配慮しました。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●色覚問題の専門家から助言を得て、色の見分けが付きにくい生徒の色覚特性にも配慮した配色にしました。また、学習に必要な情報が、色の違いのみに依存しないようにしました。</li> </ul>
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文字は見やすく、過度にデザイン的にならないように配慮しました。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●印刷は鮮明で、製本は開きがよく安全で堅牢な「糸中綴じ方式」を採用しました。6本の糸はそれぞれ独立しており、うち1本が損傷しても影響はごく軽微です。</li> </ul>	

## 2. 対照表

図書の構成		学習指導要領の内容																
ページ	教材名	器楽				創作			音楽を形づくっている要素									
		ア	イ		ウ		ア	イ		ウ	音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
			(ア)	(イ)	(ア)	(イ)		(ア)	(イ)									
10	聖者の行進	◎	◎	◎	◎	◎								○	○			
12	千の風になって	◎	◎	◎	◎	◎					○	○		○	○			
14	風にのって	◎	◎	◎	◎	◎								○	○			○
16~31	リコーダー	○		◎	◎	○					○			○	○			
32~39	ギター	○		◎	◎	○					○	○		○	○			
40~48	箏	○		◎	◎	○					○			○				
49	My Melody						◎	◎	◎	◎		○		○				○
50~55	三味線	○		◎	◎	○					○			○				
56~61	太鼓	○		◎	◎	○					○	○		○				
62~65	篠笛	○		◎	◎	○					○			○	○			
66~69	尺八	○		◎	◎	○					○			○				
70~74	打楽器	○		◎	◎	○					○	○						
76	Edelweiss	○	○	○	○	○								○	○			
77	星の世界	○	○	○	○	○					○			○				
78	春	○	○	○	○	○					○			○	○			
79	I Got Rhythm	○	○	○	○	○						○		○	○			○
80	笑点のテーマ	○	○	○	○	○					○	○		○	○			
81	海に見える街	○	○	○	○	○								○	○	○		○
82	美女と野獣	○	○	○	○	○								○	○	○		○
83	トリストレーザ	○	○	○	○	○					○	○		○	○	○		
84	ブルタバ (モルダウ)	○	○	○	○	○						○		○	○			
86	大きな古時計	○	○	○	○	○								○				○
87	One Week	○	○	○	○	○					○	○		○				○
88	クラッピングラブソディ 第1番	○	○	○	○	○						○		○				○
90	打楽器のための小品	○	○	○	○	○					○	○		○	○			
92	MATSURI	○	○	○	○	○					○	○		○	○	○		
94	「寄せの合方」によるリズムアンサンブル	○	○	○	○	○					○	○	○		○			
96~99	楽器で Melody	○	○	○	○						○	○		○				